

第4次原村総合計画後期基本計画（案）に対する参考意見

第1節 人と自然を大切にしたい住みよい村づくり

項 目	参 考 意 見
ポイ捨て防止 (1-1-4)	○看板の設置など、効果的な取り組みを行なっているところもあるので、調べてみてはどうか。条例の周知をぜひお願いしたい。
フン害 (1-1-6)	○どのようにして被害を減らすかが重要。 ○4月から不法投棄は条例違反となることをきちんと周知する必要がある。
省エネ (1-3-2)	○温度設定は痛みを伴うが、蛍光灯のLED化やスイッチの細分化など痛みを伴わない方法もあるので、検討してみてはどうか。
生活排水処理 (1-4-3)	○（浄化槽の）排水処理方法の検討とルールづくりが必要だ。
環境規制 (1-5-3)	○建ぺい率等、現行の規制では規制していないところがある。適正な住環境を見越した規制を実施してほしい。
道路体系 (1-6-1)	○柏木新道から宮川坂室までの間が狭いが、計画はあるか。ぜひ、進めてほしい。 ○悠生寮の北側は何とかならないか。降雪のたびに事故が発生している。 ○矢ノ口信号機から阿久へ抜ける幹線道路を作ってはどうか。
歩道設置 (1-6-2)	○まだ歩道設置の要望があるのも事実。（やつがね）区への対応が間違っていたため、地主が反対している。 ○中新田も難しい状況だ。「進まないのは県道沿いの人が土地を提供しないからだ」というような声もあるが、それぞれの家に事情があるので、配慮してほしい。現実的には難しい。
公共交通 (1-6-6)	○本運行に向けて利用促進のための取り組みが必要では。
消防通報受信 (1-7-1)	○高機能指令システムはできたら、村の福祉電話にも対応できるようにしてほしい。
避難所 (1-7-5)	○各地区の最終的な避難場所は公民館だが、第1避難場所の表示をしてほしい。
防犯灯 (1-7-7)	○防犯灯のセンサーが壊れて、日中もついているところもある。エコ対策として（LED化を）もっと進めてほしいが、あわせて検討する必要がある。
地域安全運動	○「安心の家」の旗がボロボロになっているので、取り替えてほしい。

第2節 人と文化を育む村づくり

項目	参 考 意 見
図書館・待ち合い所 (2-1-2)	<p>○待ち合い所をつくり、子どもが学校帰りに寄り親の迎えを待てるようにしてはどうか。</p> <p>○自分の子どもは学習目的に利用したいのにうるさくて勉強にならず、富士見町の図書館に行っただけで勉強していた。</p> <p>○学童クラブや放課後子ども広場は中学生を対象としていないのでAコープ原村店に集まる。買い食いも見られるため、居場所が必要ではないか。</p> <p>○「待ち合い所」のように限定するのは、かえって制限をつくることになるのではないか。使いたい人が使えば良い。要は使う人がモラルを守れば良い。</p> <p>○高齢者や視力低下者のための朗読CDに取り組み、新規利用者の獲得につなげて欲しい。</p> <p>○郷土資料の充実を図るなど、特色のある図書館づくりを検討して欲しい。</p>
人材バンク (2-1-3)	○小学校4年生が絵写真と名前を載せた人材一覧表をつくっている。
家庭教育 (2-1-5)	○家庭内のあいさつを推進して欲しい。
地域学習 (2-1-6)	○子育て塾に力を入れて欲しい。地域で子どもを育てる体制づくりを進めるべき。高齢者と子どもが触れ合う「穴ぐら塾」などを。茅野市では補助金を出すらしい。以前に菖蒲沢区でも実施した経過がある。「史跡めぐりウォークラリー」を開催し、子どもたちが郷土史跡を歩く機会を。アサヒビールやキリンビールなどの財団の助成もあるので、調べて活用を。
青少年	○周辺市町は高校があるが、原村には高校がないためその年代に対する計画や施策が不足している。
中学校プール (2-2-1)	<p>○プールの要否から討論すべきではないか。</p> <p>○中学生議会でも改修の要望が出ているので取り組む必要はあるが、中学生のモラルも必要。</p> <p>○必要最低限の改修でも良いのではないか。</p>
ホームステイ (2-2-2) (2-5-2)	○経済的負担により中学生ホームステイに参加したくてもできない生徒がいるので、誰でも参加できるようにしてほしい。場合によっては、大人の補助をなくしてもよい。
奨学金 (2-2-4)	<p>○奨学金については、一部でもいい給付にできないか。本当にお金がかかるのは、高校から大学の間。給付が無理なら、返還の猶予期間を延長してほしい。</p> <p>○給付することより、対象範囲を拡大することを考えるべき。現在、高校の授業料は無料化されている。本当に必要なのは大学生。原村出身の大学生を対象に貸与することについては、検討の余地はある。</p>
阿久收藏庫 (2-3-2)	○文化財系の事務所を收藏庫の隣に移せば常時公開が可能となる。

(第2節続き)

項 目	参 考 意 見
公園や広場の 利用促進 (2-4-2)	○深山公園の利用方法(誰でも自由に遊ぶことができるが、利用する場合には中新田区に申し込む)について広報し、利用の促進につなげるようにしてはどうか。
地域交流 (2-5-1)	○交流先を検討する際は、自治体の規模にかかわらず対等な立場で交流できるところを検討すべき。群馬県の川場村は世田谷区と交流しているが、双方にメリットがある。 ○都市部との交流は、婚活事業にも大きな利点がある。 ○スポーツや文化などを含めて幅広いメニューで交流できる方が良い。
男女協働参画 (2-6-1)	○女団連があるのに男団連はないことが、かえって違和感を感じている。男女共同参画において男性の教育や参画も必要なのではないか。 ○農業委員会に女性委員が誕生したことにより、女性委員はいろいろな所に参加しなければならず、その活動が主になってしまった例がある。

第3節 健康としあわせを誇れる福祉の村づくり

項目	参 考 意 見
食生活 (3-1-2)	○「男の料理教室」の取り組みを強化してほしい。これからは独身男性高齢者が増加するため、重要になると思われる。
	○ヘルススクリーニングの問診表の設問に「朝食は摂取しているか」ではなく「家族全員で朝食を摂取しているか」としてはどうか。
	○夜勤など親の勤務形態が多様化しており、各家庭で検討することが必要。
運動	○もっとウォーキングコースの整備が必要ではないか。また、ポールウォーキングやノルディックウォーキングも入れてみてはどうか。
高齢者の閉じこもり予防 (3-1-4)	○高齢者の交流のために各公民館を定期的に無料開放できないか。
高齢者ボランティア (3-2-4)	○間伐や農作業も含めたボランティアをコーディネートするセクションが必要。ボランティアセンターなど、一元的に管理する体制が必要ではないか。
	○ボランティアコーディネーターが不足している。
子育て支援 (3-4-2)	○子育て家庭への経済的支援は継続性が重要だと思うので、長期継続的に行ってほしい。
子育て支援センター (3-4-3)	○「子育て支援センター」は実現してほしい。
	○施設を造るのであれば、子どもだけでなく高齢者や障がい者など色々な世代の人と交流できるような施設にしてほしい。
消費生活 (3-6-1)	○消費者の会への補助金を廃止したことにより活動が衰退してしまっているのではないか。消費者の会の実態把握や話し合いによる活動維持や見直しが必要ではないか。 ○茅野市では消費者の会に補助金を出している。石鹼の型に補助した経過があるので、事業費補助は検討すべき。
相談体制 (3-6-2)	○他市町村では暴力団追放宣言しているところもある。対応について研究してほしい。審議会でも研究検討課題としたい。
	○暴力団に限らず迷惑行為や不当行為は起こるので、現在ある相談を活用できる体制づくりを構築してほしい。
	○「法律相談で、弁護士が対応してくれない」という相談が、心配ごと相談で寄せられている。担当弁護士ごとに点数をつけて対応のよい弁護士をお願いする等はできないか。

第4節 環境と共生した活力のある村づくり

項目	参 考 意 見
農道舗装 (4-1-1)	○目標に掲げている11,300mは村の農道全体に対してどれくらいの割合か、後日示してほしい。
有害鳥獣 (4-1-2)	○原村は茅野市や富士見町と比べて有害鳥獣の駆除が少ないので、茅野市や富士見町と同程度の駆除を行うべきと考える。
米の生産 (4-1-3)	○単に食味だけでなく用途別に適した米の生産に取り組むべきではないか。 ○多種多様な米を作っても受け入れが難しくなる。
直売所 (4-1-4)	○原上りPAで豆などを直売しているが、あまり売れていないようだ。広い場所を提供してもらい、新鮮な野菜を販売してPRすべき。 ○豆の袋の中に、商品の説明やレシピを書いた紙をいっしょに入れるべき。
加工所	○他の市町村は、行政が専門部署をつくったり、専門家を招いて研究するなど、農村としての生き残りを賭けて取り組んでおり、意気込みが違う。数年前と同じ考えでは、結局立ち上がらないのではないか。 ○行政は施設を抱えたりするが、民間は自分で建て、自分で考えて開発し、売っている。民間の考え方を取り入れるべき。 ○立ち上げのために専門家を招かないと、難しいかも知れない。
森林活用 (4-2-3)	○ミヤマシロチョウの生息場所については調査中であるが、限られてきている。生息するための森林整備が必要となっている。間伐を兼ねた体験学習はできないか。 ○森林の目的をもう一度考えてみる必要がある。
下流域と交流	○根羽村では、下流域の人たちと交流している。交流を促進している都市に絞ってもよいのでは。 ○川と海との連携を考えてみてもよい。
地域資源活用 (4-2-4)	○原村の資源を見るときに広い視野が必要。2-3-1に記載されている教育関係施設との連携も必要。郷土資源の活用も必要。 ○文化園で土器を展示してもよいのでは。
インバウンド (4-2-5)	○原村だけの集客は難しいが、宿泊の拠点でもよいのでは。農場や夏場の農業との結びつきが重要。欧米ではキャンプを好むので、必ずしも部屋にバスやトイレがなくてもよい。
観光協会	○観光協会の弱体化が進んでいるのでは。体質強化を図るためには、行政のテコ入れが必要。お金だけ出せばいいというものではない。組織内部の問題もあったかもしれないが、まとまらないと活力が出ない。他の観光協会を調べてみることも大切。 ○利益誘導が公平に行き渡らなかったことが原因と聞いている。どうあるべきか問うことから始める必要がある。行政は、よく話を聞いてほしい。 ○「はらむら物語りで紹介されているから観光協会に入らなくてもよい」という声があるが、誰がリーダーシップをとるのか。

(第4節続き)

項目	参考意見
観光拠点 (4-3-1)	○文化園の位置づけを十分考えていかなければならない。特に、リーベでは原村産の新鮮な野菜が食べられるなどの取り組みで、農作物をPRしてみてもどうか。文化園を核とした農産物の発信も重要。そこでプランを提供することは意義がある。
野菜でPR (4-2-2)	○色々なニーズにあった野菜の提供が必要。契約ほ場も必要では。 ○味わっておいしければ買っていき、リピーターになる。おいしく食べさせる工夫も必要。こる必要はなく、素材のよさが重要。
企業誘致 (4-4-2)	○企業誘致の補助金は見直した方がよい。色分けに大した根拠がない。

第5節 計画推進の方策

項目	参考意見
自治会 (5-1-3)	○区加入を義務化すべきでは。 ○自治会と財産区と一緒に考えるのは無理がある。公民館建設費も負担金ではなく使用料を充てていくなど、多岐にわたり生活区で住民が応分の負担をする形がよいと思う。 ○5-2-1③の配布物とも整合を図るべき。
広報紙 (5-2-1)	○広報はら1月号の村長のあいさつのページはとても見づらかった。デザインやレイアウトをもっと工夫すべき。
高速通信 (5-3-3)	○NTTの光ケーブルのエリア外となっているため不便している。村として、事業者に要望するなどの対応を考えているか。 ○高速通信について調べて回答するように。
徴収率向上 (5-7-1)	○他市町では、徴収率の向上対策に取り組んでいる。原村でもしっかり対策を講じてほしい。
税構造検討 (5-7-3)	○村税に占める固定資産税の割合が高い。税構造を変える検討機関を設置し、税収を増やし長期的な見込みを。 ○住民税の割合が低いのは、所得が減っていることが原因。検討機関を設置する必要はない。